

## 学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2019年度）集計結果 発達心理学科

## 回収結果

学部	文学部				人間総合学部				合計
学科	国語国文	フ語フ文	英語英文	学部計	児童文化※	発達心理※	初等教育	学部計	
回答数	92	115	99	306	65	53	72	190	496
卒業生数	95	117	106	318	65	54	72	191	509
回答割合	96.8%	98.3%	93.4%	96.2%	100.0%	98.1%	100.0%	99.5%	97.4%

※文学部児童文化学科卒業生1名を含む

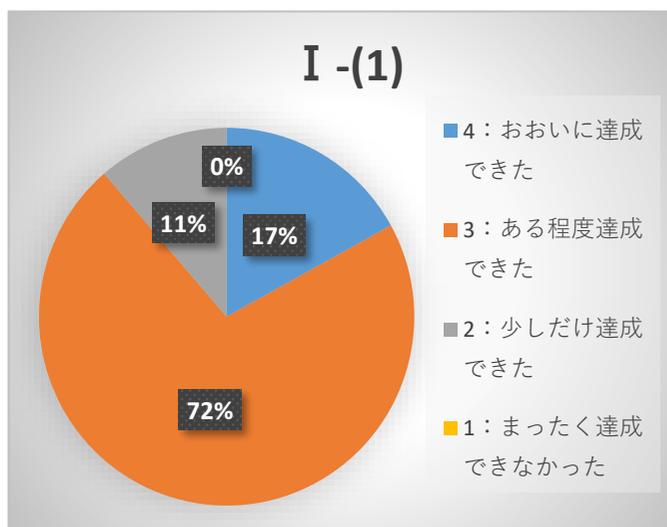
卒業生数には2019年9月卒業生、2020年3月卒業生を含む

## 1. 発達心理学科のディプロマ・ポリシーについて

(1) 時代を超えて普遍的に求められる豊かな人格形成をおこなうために、カトリックの人間観・世界観を理解するための基礎的な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	9
3：ある程度達成できた	38
2：少しだけ達成できた	6
1：まったく達成できなかった	0

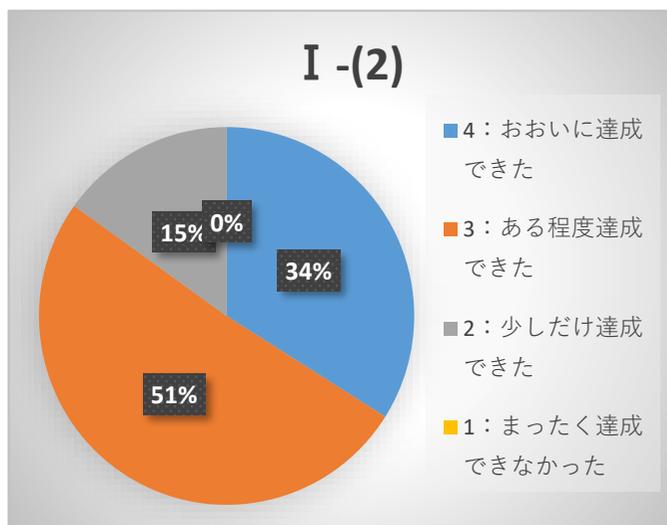
53



(2) 時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、自己を発見する心を持つ自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	18
3：ある程度達成できた	27
2：少しだけ達成できた	8
1：まったく達成できなかった	0

53

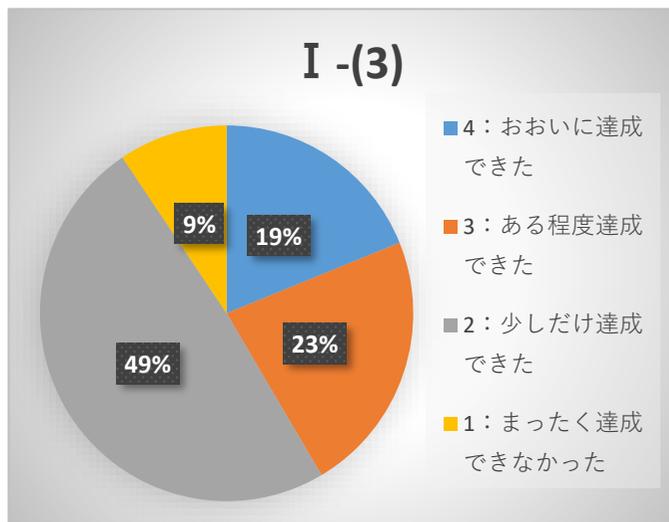


### 学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2019年度）集計結果 発達心理学科

（3）現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	10
3：ある程度達成できた	12
2：少しだけ達成できた	26
1：まったく達成できなかった	5

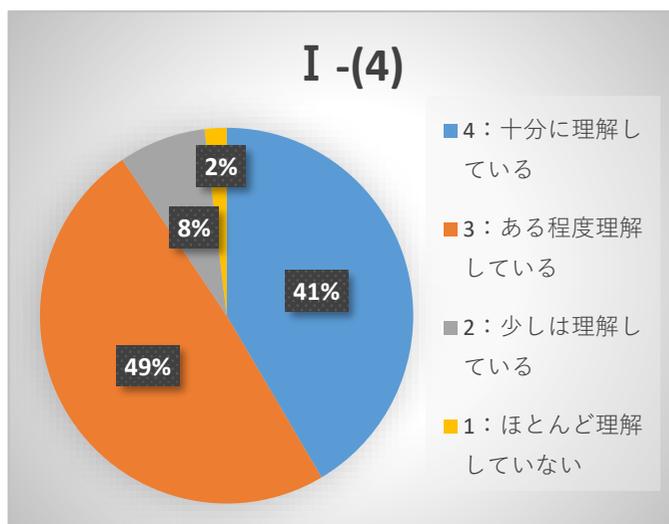
53



（4）胎児期から老年期にいたる生涯発達の標準形と多様性を、生物学的・社会文化的な背景とともに理解している。

4：十分に理解している	22
3：ある程度理解している	26
2：少しは理解している	4
1：ほとんど理解していない	1

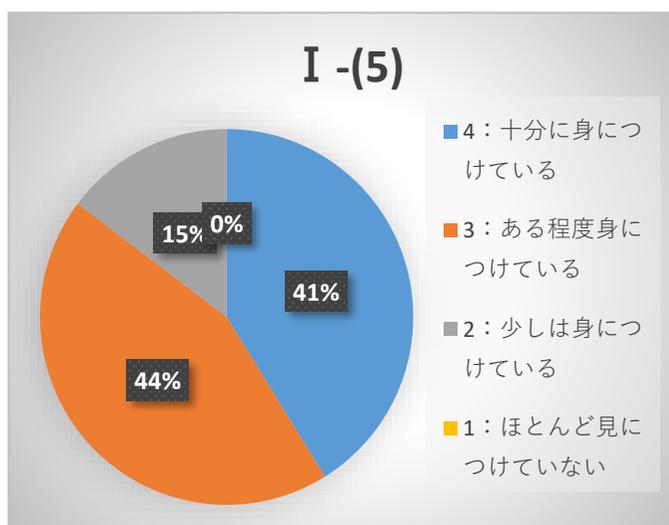
53



（5）人間は遺伝学的・生得的に規定されると同時に、どのような環境で育ち大人になっていくかという社会文化的文脈によっても大きく左右されるという生涯発達心理学の考え方を身につけ、人間を発達の視点から捉えることができる。

4：十分に身につけている	14
3：ある程度身につけている	15
2：少しは身につけている	5
1：ほとんど見につけていない	0

34

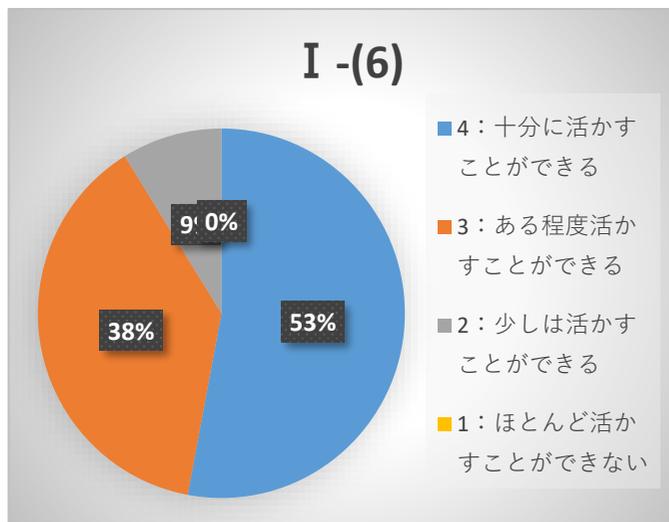


## 学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2019年度）集計結果 発達心理学科

(6) 人生のさまざまな時期に遭遇する発達の課題や危機を理解し、発達障害や精神疾患等の臨床的な問題とそれらへの対応に関する専門知識を、人々の心の健康の増進を図るためのスキルとして活かすことができる。

4：十分に活かすことができる	18
3：ある程度活かすことができる	13
2：少しは活かすことができる	3
1：ほとんど活かすことができない	0

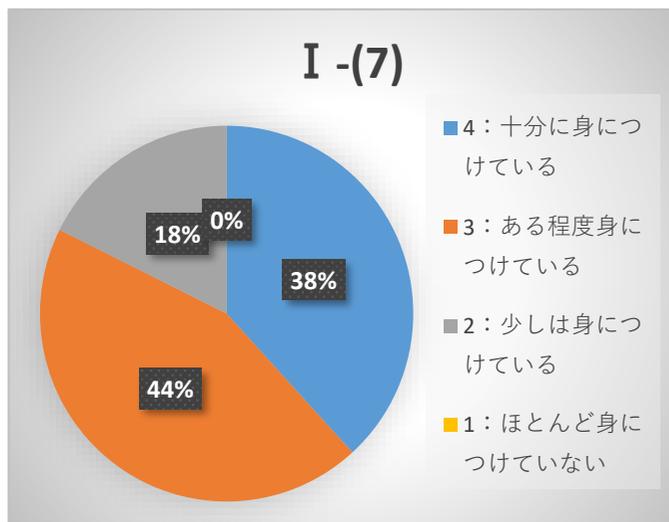
34



(7) 実験や調査、観察などの心理学の基本的な方法を身につけるとともに、それを使って現代社会の発達心理学的課題を積極的に見出して探求することができる。

4：十分に身につけている	13
3：ある程度身につけている	15
2：少しは身につけている	6
1：ほとんど身につけていない	0

34

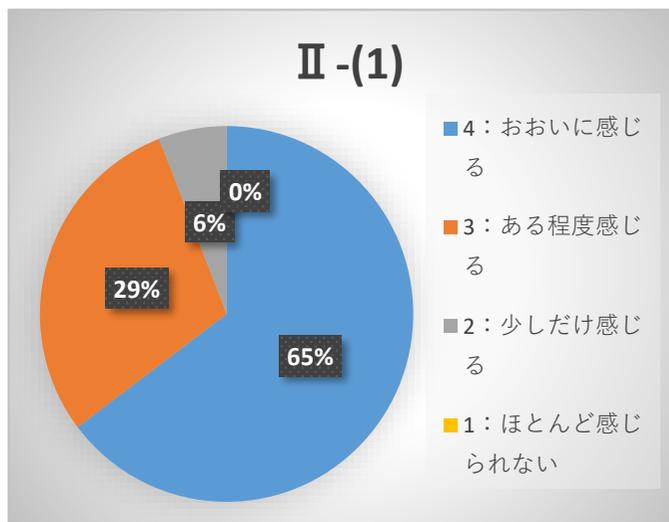


## II. 発達心理学科での全期間の学修を通じた成長実感と満足感について

(1) 自分は人間的に成長した。

4：おおいに感じる	22
3：ある程度感じる	10
2：少しだけ感じる	2
1：ほとんど感じられない	0

34

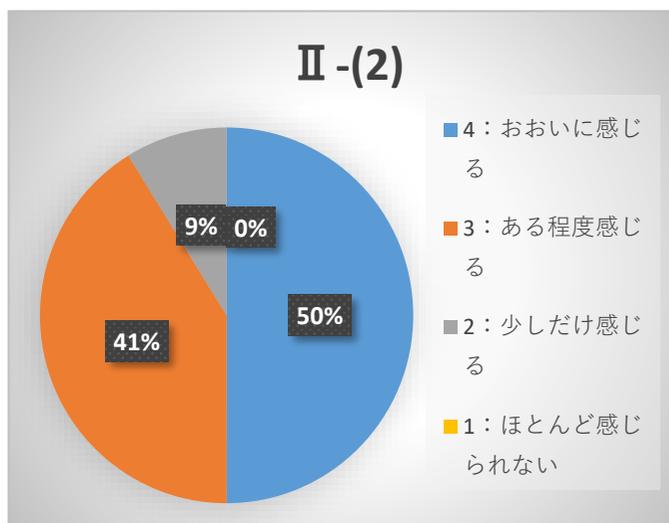


## 学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2019年度）集計結果 発達心理学科

(2) 自分は学問的に成長した。

4：おおいに感じる	17
3：ある程度感じる	14
2：少しだけ感じる	3
1：ほとんど感じられない	0

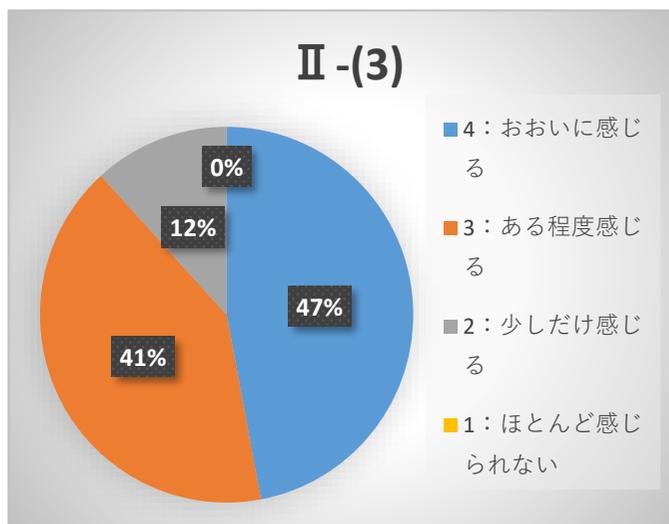
34



(3) 自分の学修成果に満足している。

4：おおいに感じる	16
3：ある程度感じる	14
2：少しだけ感じる	4
1：ほとんど感じられない	0

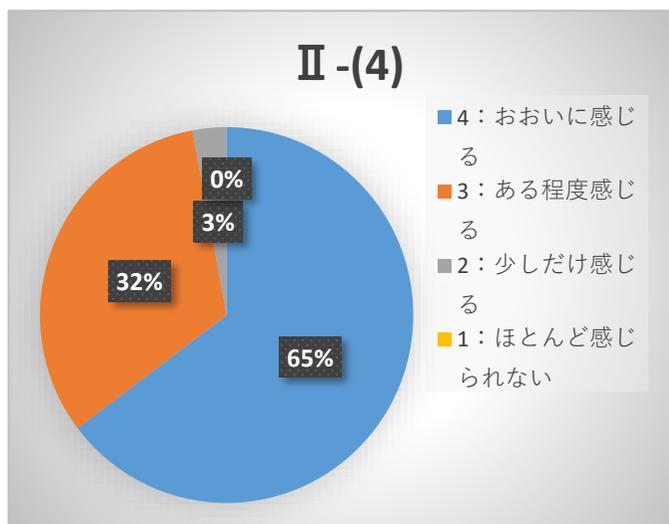
34



(4) 自分の大学生生活に満足している。

4：おおいに感じる	22
3：ある程度感じる	11
2：少しだけ感じる	1
1：ほとんど感じられない	0

34



**学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2019年度）集計結果 発達心理学科****2019年度卒業時アンケートに関する考察（発達心理学科）****1. 発達心理学科のディプロマポリシーについて**

時代を超えて普遍的に求められる能力については、豊かな人格形成をおこなうために、カトリックの人間観・世界観を理解するための基礎的な能力、および深い教養と知性、自己を発見する心を持つ自立した女性になるための基礎的な能力については、「ある程度達成できた」、「おおいに達成できた」と回答した人が8割を超えていた。これは、学生が本学科の授業等で経験したことが、学生の成長に寄与していることを示唆している。

加えて、本学科の専門的学びである生涯発達心理学の知識・考え方、心理学の方法論に関する理解についても、「ある程度達成できた」、「おおいに達成できた」と回答した人が8割を超えていた。これは本学科の学びによって、発達課題、発達上の危機、発達障害や精神疾患等の臨床的な問題について理解を深めたうえで、本学を卒業していることを示しており、卒業生が社会人としての生活の中で、生涯発達心理学的な考え方を応用して実際の社会問題に対応していくことが期待できる。

しかしながら、外国語学習や異文化への理解に関する項目については、「少しだけ達成できた」と回答した人が5割弱おり、他の項目と回答の傾向が異なっていた。普遍的に求められる能力や生涯発達心理学的な考え方をグローバル化していく社会の中で、発揮していくために、今後は学国語学習や異文化理解を促進していく必要があると考えられる。

**2. 発達心理学科での全期間の学修を通じた成長実感と満足感について**

卒業生は本学科での学びにおいて、人間的に成長し、学問的にも成長したと感じている者が多く、いずれの項目も「ある程度感じる」と「おおいに感じる」を合わせると、8割を超えていた。加えて、学修成果、大学生生活いずれの満足度についても、「ある程度感じる」と「おおいに感じる」と回答した人は同様に8割を超えていた。

この結果は、発達心理学科のディプロマポリシーに関する項目において、普遍的な能力や生涯発達心理学の専門的な考え方を修得している学生が多いことを反映していると考えられる。今後も学生の人間的・学問的成長に寄与できる教育を継続的に提供していくことが必要になると考えられる。